

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホーム しらさぎの里
所在地	愛媛県松山市菟川1丁目2番28号
自己評価作成日	平成28年5月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>相手に対して思いやりを持ち、お互いが協力し合って、また相手の立場に立って考える事によって、お互いの信頼関係を深め、利用者様により良いケアが出来るように日々取り組んでいる。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>この一年間では、近所にあるコンビニやレストランの利用等、地域に出かけて行くことを始めている。 不定期ではあるが、家族に向けて事業所便りを発行しており、この一年間で3回「認知症についての一口メモ」として豆知識を載せている。 建物は、1年前に耐震工事を行っており、又、事業所が所在する4階部分は、津波の影響はないようだ。備蓄は、利用者の3日分が用意されている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム しらさぎの里

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

丹下 実子

評価完了日

平成 28 年 5 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			「自分らしく」を理念に利用者や家族のニーズを踏まえ、 個々にあったサービスを提供している。地域との交流もイベ ントを通し少しずつではあるが、増えている。	
			(外部評価)	
			理念は、エレベーターを降りたすぐの廊下の壁に掲示してい る。この一年間は、利用者の入れ替わりが多くあって、現在 は、介護度軽度の利用者が多い。計画作成担当者は、今後 さらに「利用者の以前の暮らし方を取り入れた支援を実践し ていきたい」と話していた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			日常的な交流としては、散歩に出かけた際に挨拶をする程 度である。	
			(外部評価)	
			法人全体としては保育園との交流等、行事を通じて地域交 流する機会があるが、事業所単独で地域とおつきあいする 機会は持っていない。この一年間では、近所にあるコンビニ やレストランの利用等、地域に出かけて行くことを始めてい る。	現在、地域交流については職員のアイデア等を聞き、話し 合っているところである。まずは、地域活動についての情報 収集等、地域を知る取り組みから始めてはどうだろうか。運 営推進会議等を活かして地域のネットワーク作りに力を入れ て取り組んでほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議にて日常や特変の対応など報告をし、理解を 得ている。直接、地域への発信は出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議で利用者の現状や行事報告、施設での問題点などを報告し、出席者より意見を頂き、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価)                      会議には、家族や民生委員の方、地域の代表者の方等が参加しており、利用者は一名が同席している。会議時には、事業所から利用者の入退居、活動報告等を口頭で行い、質疑応答、意見交換を行っている。外部研修受講時には報告を行っている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議で市町村担当者より意見や情報を得たり、年1回の市役所での連絡会等に参加し、実践に繋げているが日常的には関わりを持っていない。</p> <p>(外部評価)                      地区のグループホーム連絡会に参加して、同業者と一緒に勉強をしている。管理者は、運営推進会議について学びたいと考えており、次回の連絡会の折には、「他事業所の会議に参加させてもらえるようお願いしてみたい」と話していた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      勉強会などで、身体拘束における禁止行為を把握している。車椅子にて長時間過ごす利用者については、椅子やソファーに座って過ごして頂くよう心掛けている。</p> <p>(外部評価)                      車いすを利用する方によっては、テーブルのイス席に座って食事ができるよう支援している。洗濯物を干しに屋上に出たり、職員の買い物と一緒にいく等、外に出る機会を作っている。エレベーターは、暗証番号を入れて使用するようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  日常的に利用者への声掛け、又、トイレや入浴時にボディチェックを行い、変化を見逃さないように努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  知識としては多少あるが、直接的な支援をする支援者があらず、今までに関わったことがない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  事前に訪問し、その場で家族・利用者と十分に話し合いや説明を行い、理解や納得を図っている。又、入居後も同様に行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  管理者やスタッフには都度言って頂き、運営に反映させている。外部への反映は出来ていない。  (外部評価)  面会時間は、午前9時～午後5時となっているが、建物内併設施設の受付が対応する午前7時～午後7時は可能となっている。家族来訪時には、その時々エピソードも織り交ぜながら報告を行っている。又、体調等に変化があれば、その都度電話で状況報告を行っている。不定期ではあるが、家族に向けて事業所便りを発行しており、この一年間で3回「認知症についての一口メモ」として豆知識を載せている。	家族への情報発信については、家族が知りたい情報を得られるような取り組みの工夫が期待される。便りについては、家族に感想を聞いてみたり、どのような情報があれば役立つか話し合ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			運営に対し、理事からは十分に説明を受けているが、運営や方針についてスタッフサイドから意見や提案を表すことはない。	
			(外部評価)	
			月に1回の職員会議時には、ケアについて相談する職員もあり、皆で話し合いながら取り組んでいる。おやつを手作りするようになり、職員はインターネット等でレシピを探して一緒に作る等して支援している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			各々の状況や個性を重視の上、評価してくれている。又、労いの言葉をかけてもらうことにより、向上心を持って働く事が出来ている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修に参加する機会を設けてもらい、参加した職員の報告により共有したトレーニングが出来ている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域包括主催の連絡会に参加させてもらう事によって、同業者との交流や意見を参考に出来、サービス向上に役立っている事がある。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			不安や訴えに耳を傾け、話し合っ改善に向けての努力を行っている。又、信頼関係を作る努力も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>初期の面会時に時間を頂き、家族様に希望・要望・その他利用者についての情報をお聞きしている。又、希望については実践し、相談、話し合っている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状況を把握し、様々な観点から考慮、対応するよう努めている。又、上司に相談し、間違いのないよう対応を心掛けている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日常の対応、会話の中で、人生の先輩としての体験や価値感を聞くことによって、学ぶべき事が多々あり、話し合いにより関係保持が保たれている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時に利用者の日常の報告をもとに利用者の性格や気質をアドバイス、又、ご協力頂く事により、スタッフとの信頼関係も出来ている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一部の利用者であるが、家族の協力のもと、馴染みの人の面会あり、関係性を保っている。個別に馴染みの場所にお連れすることは出来ていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族に年賀状を出せるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、必要に応じてスタッフが仲介に入り、孤立防止、又、関わりを持てるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 法人内の他部署へ移られた方に対しては、行事などを通し、コミュニケーションをとっている。しかし、外部へ移られた方とは関係が途絶えている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとりながらご本人の思いを理解したり、把握している。スタッフだけ困難な場合は、理事や御家族と相談しながら本人本位に検討している。 (外部評価) 日常生活の中で、今日着る洋服を選んだり、おやつメニューを決めたりする場面を作っている。又、職員は「ひなたぼっこに行きますか？」等と声をかけ、利用者の返事を待ってから支援していた。計画作成担当者の交代時を機に、利用者や家族に聞き取りを行った。	日々の介護記録は詳しい記録に努めているが、さらに、利用者の「自分らしく」を支援するためにも、個々の情報を整理するような取り組みも期待される。得た情報は介護計画に採り入れ、利用者個々の「自分らしく」を支援してほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしやサービス利用などはサマリーやフェースシートにて把握しているが、更なる詳細は本人・家族より情報収集している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各々の日々の過ごし方は把握出来ており、プラス、その日の心身状態に合わせ生活している。又、スタッフ間で情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者が快適に過ごして頂けるよう、本人にとって、何が大切なのか、一人一人に合った介護計画を様々な意見を求めながら作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者、家族に聞き取りして介護計画を作成しており、3ヶ月毎に見直しを行っている。計画内容は「ケアプラン一覧表」にして職員で共有し、介護記録のほかに「ケアプランチェック表」にも支援経過を記録している。月1回、「できている できていない」でモニタリングを行ない見直しにつなげている。ご夫婦で入居している方はお二人で散歩する等、歩行練習ができるようなプランを作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録、日誌に1日様子やケア実践について記録に残し、連絡ノートにてスタッフ間の情報交換をし、共有且つ、今後の見通しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日によって求められる内容が強い、問題も変化する。今、その人にとって、何が大切なのか、何が必要なかを把握し、対応できるよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 外部ボランティア、保育園児の慰問、理美容の協働により、いきいきとした楽しい生活を送る事が出来ている。又、定期的に消防訓練を行い安全で豊かな暮らしができるよう心掛けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	併設、医療機関と密に連携をとり、24時間体制で利用者を支援する事が出来ている。看護スタッフを通し、日々、健康管理に努めている。  建物内にある協力医療機関の医師が毎日訪れ、利用者を一人ずつ診ている。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	毎日バイタルチェックを行い、声掛けによる体調確認を含め、体調管理及び異変を早期発見するよう心掛けている。又、特変時は、看護スタッフに連絡し、医療連携をとるようにしている。	
			(外部評価)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	入院時には、サマリーを通じ情報伝達を行っている。ご本人や家族に安心して頂けるよう努めている。併設のクリニックとは常に情報交換や相談出来ている。	
			(外部評価)		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	必要な時期に家族・主治医と話し合い、利用者の看取りを支援している。地域関係との支援体制はない。  この一年間では、重度のため系列介護施設や系列病院に移ったような利用者もいる。入居契約時には、終末期のあり方について利用者、家族に同意を得るようにしている。「最期までホームで」と希望するケースが多いが、「急変があれば病院へ運ぶ」ことを伝えて同意を得ている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			研修などで事故防止を学んでいる。又、事故報告やひやりはつとを共有、検討会を行い、再発防止に取り組んでいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回の消防訓練を実施しており、消防署との協力体制のもと、昼夜それぞれに想定した訓練に取り組み、万一に備えている。	
			(外部評価)	
年2回、併設施設と合同で火災を想定した避難訓練を職員と利用者で行っている。火災時には、非常階段からマット等を使って利用者を避難させることになっている。建物は、1年前に耐震工事を行っており、又、事業所が所在する4階部分は、津波の影響はないようだ。備蓄は、利用者の3日分が用意されている。				
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			プライドを傷つけないよう配慮しながら、その人らしく過ごせるようプライバシーの確保に努めている。	
			(外部評価)	
買い物時に、自分で支払うような場面を作ることを支援している。重度の利用者には、スキンシップを多く取るようにしている。				
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			飲み物や衣服など選択可能なものは自己決定して頂き、本人を尊重する。本人が訴えやすい雰囲気作りを心掛け、コミュニケーションを大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しては無いが、共同生活である以上、他の利用者と一緒に、ある程度のルールは守って頂いている。そのルールの中で可能な希望は出来るだけ実行している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時のモーニングケアを始め、衣類は選択出来るよう誘導している。理美容はご本人の希望を組み入れてもらっている。行事の際には化粧をし喜んで頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は法人厨房より出されている為、各自の好みには合わせられないが、おやつはスタッフの手作りにて、各自の希望に添えるようにしている。又、食事の後片付けは利用者と共にやるよう努めている。 (外部評価) 昼食は12時、夕食は17時過ぎからに変更している。食事は、法人の厨房からトレーに配膳されて届き、職員は今日のメニューを説明して、同じテーブルで同じものを食べている。食事は、全体的に冷めているが、これまで利用者から食事についての意見や苦情は出ていないようだ。食事を楽しむ工夫については、今後もさらに話し合いの場を作ってほしい。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士との連携のもと、各自の状況に合わせた食事が提供出来ている。又、医師に相談し、栄養補助食品の検討もできている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) スタッフ、見守り、介助のもと、毎食後、口腔ケアを行っている。職員介助が困難な場合は、協力歯科医訪問にて口腔ケアをして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行うことにより、おむつ減らしが出来るよう努力している。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	毎日の水分摂取や食事内容に気を付け、排泄の状況を常に把握し、維持の指導のもと自然に排泄できるよう支援している。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	曜日や時間の指定があり、その時々希望やタイミングに合わせる事はできないが、個人のペースや希望に応じた入浴時間が持てるよう努めている。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	規則正しい生活のリズムを支援しており、又、その日の本人様の状態に合わせた休息をして頂いている。室内も温度と湿度の管理を行わないながら、健康管理と快い環境を提供するよう努力している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の必要性を理解し、副作用・効能・効果について把握に努めている。又、情報共有する事により、状態の変化や経過の理解に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ぬり絵や合唱など、本人様の好きな事をして頂く事により、楽しんで頂いている。しかし、認知症重度な方も多いため、テレビ鑑賞や職員との会話などが多く、役割を作る事は困難である。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族様の支援のもとでの外出が多く、又、外出ができる利用者様が少ない。できるだけ外出支援を行っていききたい。	この一年間では外出する機会が多くなっている。今後は利用者の希望等を引き出しながら出かけてみるような機会も作ってほしい。又、地域に出かけて行き、地域の方達とつながりを持てるような取り組みも期待される。
			(外部評価) お花見に出かけて外食して帰ったり、近くのスーパーやコンビニで買い物ができるよう支援している。散歩は、季節に応じて過ごしやすい時間帯に出かけられるよう配慮している。お花見の際、一緒に出かけた家族から、保育園の近くを通った際に「園児の声が聞こえて元気をもらった」という感想があった。法人の車を借りることができるようになり、出かけやすくなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本、グループホーム内での金銭や貴重品の持ち込みはお断りしている。家族様の管理内での金銭の所持及び使用は支援していききたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の書ける利用者様には、機会があれば家族様等に宛てた手紙を書いて頂いたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			廊下、居間、食堂などに季節感を取り入れた装飾や写真を飾り、台所や浴室、トイレには生活感のある空間を作っている。	
			(外部評価)	
			居間でテレビを見ながら歌ったり、体操をしたりして過ごしている。台所はおやつ作りに使用するが、事務室も兼ねている。建物の屋上に菜園があり、いも掘り等、利用者が収穫等を行っている。	「利用者の楽しみを作りたい」と考えており、レクリエーションの工夫を検討している。生活空間の中に、五感に働きかけるような様々な刺激を採り入れて、利用者の居心地のよさや能動的な言動を引き出してほしい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			共同で使用できる空間は、食堂兼リビングで、個々の決まった席があり、その中で利用して頂いている。ソファも利用して頂いている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人様の使い慣れたものを持ち込んで頂いており、本人様や家族様の要望にあった配置となっている。その中で、本人様も快適に過ごされている。	
			(外部評価)	
			午後からは30分～1時間昼寝する時間を作っている。居室はベッドで休む際にのみ使用する方が多いが、中にはベッドに腰掛けて折り紙をする利用者がある。自作品は壁等に飾っていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			バリアフリー、手すりが設置されており、本人様が自立した生活が少しでも送れるような環境がある。又、安全で分かりやすい環境で、安全で安心した生活を送って頂いている。	